



# 学内広報



2003. 3. 12  
東京大学広報委員会

## 東京大学外国人留学生後援会による 「留学生スキー講習会」開催される



(9 ページに関連記事)

### 目次

一般ニュース .....	2	究博物館公開講座「人類進化史研究の最前線：化石と分子と先史」	
「第2回東京大学総長賞」の受賞者決定される、第2次学力試験（前期日程）終わる、学術研究奨励資金による平成15年度国際交流助成事業採択される、平成15年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について、東京大学卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会、2002年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（冬学期）（第35期生）の修了証授与式行われる、東京大学外国人留学生後援会による「留学生スキー講習会」開催される、平成14年度総合研		部局ニュース .....	11
		退官教官の最終講義、大滝村・秩父演習林交流シンポジウム開催される、堂本暁子千葉県知事が千葉演習林を訪問	
		掲示板 .....	12
		総合研究博物館小石川分館の常設展再開について、社会情報研究所教育部研究生募集、コンピュータ・ネットワーク利用セミナーのお知らせ	
		事務連絡（人事異動（教官）） .....	13
		広報委員会 .....	14
		淡青評論「自転車乗りのマナー」 .....	16

## ≡ 一般ニュース ≡

## 「第2回東京大学総長賞」の受賞者決定される

学生表彰選考委員会（委員長 林 良博農学生命科学研究科長）では、第2回表彰の実施に向けて慎重に選考審査にあたり、以下の個人5名及び1団体を選出した。

今回は、本年度既に推薦されていた候補者に、新たに推薦された候補者を加えた合計21件の中から選出された。

授賞式では、受賞者への表彰及び総長の挨拶の後、各受賞者（個人・団体）からのプレゼンテーションが行われる。また、第1回表彰を受賞した応援部の友情出演による特別演舞が授賞式に先立ち行われる予定である。

授賞式は、学生諸君を中心とした祝福の場としたいので、卒業生をはじめ各学生団体（サークル）等多くの学生諸君にぜひ参加をお願いしたい。

なお、授賞式には第1回の受賞者に加え、各学部及び研究科の本年度卒業生代表並びに修了者代表が、総長から招待されることになっている。

## 記

## 受賞者

- 個人の部 工学系博士3年 水口 将輝  
 (2002科学技術大賞フジテレビジョン賞)  
 新領域博士1年 中野 裕昭  
 (ウミユリの人工孵化に世界初の成功)  
 法学部 4年 加毛 明  
 (法学部最優秀成績者)  
 経済学部 4年 小島 武仁  
 (経済学部最優秀成績者)  
 薬学部 4年 中田 栄介  
 (薬学部最優秀成績者)

- 団体の部 東京大学音楽部管弦楽団  
 (入学式・卒業式の演奏協力等の演奏活動)

日時 平成15年3月26日(水)〔卒業式前日〕

○応援部特別演舞 16:30~17:00

○授賞式 17:00~18:00

場所 大講堂(安田講堂)

※ 当日大講堂は、卒業式の準備を行っているので、会場への入場は16:15からとします。

(学生課)

## 第2次学力試験(前期日程)終わる

平成15年度本学入学者選抜の第2次学力試験(前期日程)が、2月25日(火)、26日(水)、27日(木)の3日間にわたって実施された。第1段階選抜に合格した8,523人のうち8,439人(欠席84人)が、文科一・二・三類は駒場キャンパスで、理科一・二・三類は本郷キャンパスで最後の関門に挑戦した。合格者の発表は、3月10日(月)に行われた。

各科類の最終受験者数等は、次のとおりである。

## 第2次学力試験(前期日程)各科類別受験者数等

科 類	募集人員	第1段階選抜合格者数	欠席者数	受験者数
文科一類	544	1,632	28	1,604
文科二類	327	981	5	976
文科三類	432	1,299	11	1,288
理科一類	1,025	2,568	7	2,561
理科二類	492	1,723	27	1,696
理科三類	80	320	6	314
合 計	2,900	8,523	84	8,439

注：外国学校卒業学生特別選考を除く。

また、外国学校卒業学生特別選考については、第1次合格者85人のうち、第1種36人は2月25日(火)に小論文、第2種49人は2月25日(火)・26日(水)に小論文と学力試験に取り組んだ。欠席者は5人(第1種2人、第2種3人)である。なお、3月16日(日)には、上記の受験者全員に面接が行われ、合格者の発表は、3月23日(日)に行われる。

(入試課)

## 学術研究奨励資金による平成15年度国際交流助成事業採択される

平成15年度国際交流助成事業のうち次の5事業について、以下のとおり助成することを決定しました。

### 1. 海外学術交流拠点設置・運営経費助成事業

部 局 名	代表者職・氏名	拠点の名称	設置場所
生産技術研究所(継続)	所長 西尾 茂文	都市安全性向上のための地域ネットワークオフィス	アジア工科大学院社会基盤工学科(タイ)

### 2. 国際共同研究経費助成事業

部 局 名	代表者職・氏名	研究課題	相手機関名
大学院人文社会系研究科	教授 池田謙一	サイバーコミュニティの出現とそのインパクト;日韓比較文化研究	韓国延世大学校(韓国)
大学院農学生命科学研究科	教授 山口五十磨	イネの乾燥耐性遺伝子ならびに低温耐性遺伝子の単離と解析	四川農業大学水稲研究所(中国)
大学院新領域創成科学研究科	教授 相澤清晴	奥行きのある自然な対象シーンに適用可能かつ複数の視覚効果の同時レンダリングが可能な新しいイメージベースレンダリング手法の開発	カーネギーメロン大学(アメリカ)
大学院理学系研究科(継続)	教授 深田吉孝	光感受性の時計細胞株Z3を用いた概日時計遺伝子の光依存的発現制御メカニズムの解明	フランス国立科学研究センター(CNRS)(フランス)
環境安全研究センター(継続)	教授 山本和夫	大学内における有機系排水・廃棄物のミニマムエミッションを目的とした管理システムの開発	ソウル国立大学環境保全センター(韓国)

### 3. 国際交流推進経費助成事業(前期募集分)

部 局 名	代表者職・氏名	相手機関名	派遣者数	招へい者数
大学院医学系研究科	助教授 黒岩宙司	モンゴル保健省感染症対策センター、公衆衛生研究所(モンゴル)	1	1
大学院農学生命科学研究科	教授 坂 齋	ウボン稲研究所、国際稲研究所ウボン事務所(タイ)	5	3
大学院経済学研究科	研究科長 岩井克人	フンボルト大学(ドイツ)		1
大学院教育学研究科	助教授 志水宏吉	カリフォルニア大学サンタクルズ校(アメリカ)、ロンドン大学教育学研究所(イギリス)	1	2
大学院新領域創成科学研究科	助教授 島田荘平	チャルマーズ工科大学(スウェーデン)	1	1
社会科学研究所	所長 仁田道夫	シェフィールド大学東アジア学部(イギリス)	1	
物性研究所	助手 大西 剛	ジュネーブ大学(スイス)	2	2

### 4. 長期派遣経費助成事業

部 局 名	申請者職・氏名	研究題目	派遣先
医学部附属病院	助手 渡邊慶一郎	神経ペプチドに関する研究	マギル大学(カナダ)
大学院総合文化研究科	助教授 中澤恒子	疑問文の統語・意味論的分析に関する研究	イリノイ大学(アメリカ)
地震研究所	教授 川勝 均	地球内部構造に関する研究	パリ地球物理学研究所(フランス)

### 5. 若手研究者派遣経費助成事業(前期募集分)

部 局 名	申請者職・氏名	派遣先
総合研究博物館	助手 佐々木猛智	スウェーデン
大学院理学系研究科	助手 山垣 亮	オランダ、イギリス
大学院新領域創成科学研究科	助教授 佐藤 仁	オランダ
生産技術研究所	助手 古原和邦	デンマーク

(国際交流課)

## 平成15年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について

下記要項のとおり募集しますので、所属部局を通じ、研究協力部国際交流課国際学術掛まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当掛へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/gaku-kin.html>

### 平成15年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者募集要項

#### 1. 趣 旨

東京大学大学院学生の国外における学会報告及び各種研究上の調査に対し、東京大学学術研究奨励資金から学資を給付し、もって大学院学生の国際学術交流及び研究・教育の充実を図るものとする。

#### 2. 応募資格

東京大学大学院に在籍する学生

#### 3. 給付する学資

①平成15年6月から平成15年11月、及び、②平成15年12月から平成16年5月までに行われる国外における学会報告及び各種研究上の調査を行うために必要な経費のうち、渡航に要する費用の一部（エコノミークラスのディスカウント航空運賃を基準）を給付する。

（留学のための旅費である場合を除く。）

#### 4. 給付予定者数

各研究科（学府）、若干名とする。

#### 5. 申請手続

学資の給付を希望する者は、下記の書類を所属研究科（学府）委員会委員長を経由して総長に提出する。

##### (1) 提出書類

- ア 申請書(様式1) 2部(原本1部及び写1部)  
イ 説明書(様式2) 2部(原本1部及び写1部)  
なお、当該学会・調査の概要を記載した要項等がある場合は、添付すること。

##### (2) 提出期限

給付区分	渡航期間（出発月）	提出期限
①	平成15年6月	平成15年4月1日(火)
	平成15年11月	平成15年4月17日(木)
②	平成15年12月	平成15年9月16日(火)
	平成16年5月	平成15年10月2日(木)

なお、①の渡航期間において給付が決定した者は、②の渡航期間について申請することができない。

##### (3) 提出先

所属研究科（学府）事務部

#### 6. 選考及び結果の通知

給付対象者の選考は、所属研究科（学府）の意見を尊重して、東京大学学術研究奨励資金実施委員会において書類審査のうえ、総長が決定する。選考の結果は、所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、①については5月下旬に、②については11月下旬に、申請者あて通知する。

#### 7. 計画の変更・中止

申請した学会報告・調査を変更又は取り止める場合は、選考中あるいは給付決定後を問わず、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、総長に報告し、その指示を受けること。

#### 8. 報告書の提出

学資の給付を受けた者は、帰国後、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、総長に報告書を提出すること。

#### 9. 問合せ先

所属研究科（学府）事務部又は事務局研究協力部国際交流課

## 東京大学卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会

「東京大学卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会」が、2月18日（火）午後6時から東天紅上野店で総勢約370名が参加して開催されました。

この懇談会は、昨年度まで「東京大学外国人留学生、留学生支援団体と総長との懇談会」として開催されてきましたが、近年、本学の外国人留学生数は増加が著しく2,100名を超え、毎年会場に来て、混雑で身動きもできない状況が続き、苦情が多く寄せられていたため、今年度の懇談会からは、本学に在籍し、本年3月に学部卒業あるいは大学院修士・博士課程修了を予定し、母国等に帰国する外国人留学生を祝すとともに、本学に在籍する外国人留学生に対して奨学金・宿舍・ボランティア等多大なご支援をたまわっている外国人留学生支援団体、各国大使館及び自治体等関係者と佐々木総長、副学長、留学生センター長、事務局長、各部局長をはじめとする関係教職員が一堂に会し、親しく懇談して交流を深めることを目的として開催されました。

懇談会は、佐々木総長の挨拶に始まり、飯塚留学生センター長の発声により乾杯が行われ、その後、外国人留学生代表の4名から、本学での勉学や研究の成果、日本での異文化体験談、卒業・修了後の抱負について、流暢な日本語で挨拶が述べられました。

互いに異なる文化を持つ多くの国・地域から集まった留学生同士、また、各国大使館並びに支援団体のメンバー、教職員と写真を撮りあう等なごやかな歓談が進み、午後7時半過ぎに留学生交流委員会委員長でもある廣渡副学長から閉会の挨拶があり、盛会のうちに終了しました。

## 2002年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（冬学期）（第35期生）の修了証授与式行われる

留学生センターでは、昨年10月から本年度冬学期を開講していたが、このほど、全日程を終了し、2月21日（金）15時30分から、弥生講堂において、38名の修了者に対する修了証授与式を行った。

式には、来賓の佐々木総長のほか、関係教官らが列席、飯塚センター長挨拶に続いて、佐々木総長から祝辞が述べられた。総長は、コースをやり終えたことをねぎらったあと、「これからみなさんにとって本当のチャレンジである。みなさんひとりひとりの目標が一日も早く達成されることを期待する」と述べて、修了を祝うとともに、この日をひとつの区切りとして一層励むよう修了者たちに呼びかけた。

続いて修了者ひとりひとりに飯塚センター長から修了証が手渡され、留学生センター菊地教授の講評のあと、各クラスの代表者が日本語でスピーチを行い、来日当初の日本での生活や日本語学習への不安な気持ち、それを克服した喜び、いろいろな国からのクラスメートとの楽しい思い出や、これから本格的に研究に取り組むことへの抱負などが語られた。

和やかな雰囲気の中に式は終了し、引き続き山上会館にところを移して、修了者を囲んでの懇談会が開かれた。これには廣渡副学長が参加され、修了者たちは、クラスごとに副学長を囲んで写真撮影をするなどしながら、日本語で歓談し、互いに修了を祝い、別れを惜しんだ。

なお、今期の修了者38名の所属は以下の13研究科、出身は以下の21の国（または地域）である。

法学政治学研究科	4名
医学系研究科	3名
工学系研究科	10名
人文社会系研究科	5名
理学系研究科	1名
農学生命科学研究科	4名
経済学研究科	2名
総合文化研究科	3名
教育学研究科	1名
薬学系研究科	1名
数理科学研究科	2名
情報理工学系研究科	1名
学際情報学府	1名
韓国	3名
台湾	1名
中国	3名
フィリピン	2名
インドネシア	2名
シンガポール	1名
マレーシア	1名
タイ	5名
ミャンマー	1名



本学教職員代表の紹介（左から飯塚留学生センター長、小間副学長、佐々木総長、廣渡副学長、梶野事務局長）



佐々木総長を囲む留学生達



学部留学生を代表して挨拶する、経済学部のパッチャラー ロチンダーラットさん（タイ）

（研究協力部留学生課）

イスラエル	1名
ボスニアヘルツェゴビナ	1名
イタリア	1名
フランス	2名
スウェーデン	1名
ハンガリー	1名
ルーマニア	1名
ロシア	3名
アルメニア	1名
カナダ	2名
アメリカ合衆国	4名
ウルグアイ	1名
	以上

#### クラス1代表、ヌヌ カイ (ミャンマー、教育学研究科)

先生方、留学生センターのスタッフのみなさん、こんにちは。

クラス1のだいひょう、ミャンマーのヌヌともうします。どうぞよろしくおねがいます。今月の18日、留学生センターでの日本語のじゅぎょうがおわりました。今日はわたしたちのクラスについておはなししたいとおもいます。

クラス1には、学生が6人いました。アルメニアのハリプシマさん、マレーシアのゴーさん、タイのポムさん、フィリピンのメロディさん、ロシアのマキシムさん、それからわたしです。

わたしたちはいつも元気で、クラスは楽しかったです。じゅぎょうはとてにぎやかでした。ときどきちょっとうるさかったかもしれませんが。ごめんなさい。

日本語の勉強は、はじめはとってもたいへんでした。きいていてもぜんぜんわかりませんでした。でも先生方はゆっくり話してくれました。なにをはなしているかわかるようになると日本語がおもしろくなりました。先生方のおかげで、わたしたちは、ひらがな、カタカナと200ぐらいの漢字をならいました。今わたしたちは電話で「もしもし」とはなしています。

漢字の勉強は、ときどき頭がいっぱいになってたいへんでした。ゴーさんは漢字がとくいなので、わたしたちの先生になってくれました。

クラスでは、じぶんたちの国の文化について、話したのがいちばんおもしろかったです。たとえば、お正月になにをしますかとか、結婚するときなにをあげますかなどです。ハリプシマさんは友だちにゆびわをあげたそうです。マキシムさんはおいわいに車と部屋をもらったと言いました。本当でしょうか？みんなのしゅみの話もおもしろかったです。タイのポムさんは「どうして女の人は美しさをもとめるのか」をかんがえているそうです。私もしりたいです。

「いくらですか。ちょっとやすくしてください。」などの会話の練習も楽しかったです。わたしたちは日本語で買い物ができるようになりました。

わたしたちクラス1は日本語をいっしょに勉強をして、みんないい友だちになりました。わたしたちは日本語が好きになりました。もっともっと日本語が上手になりたいです。漢字のいみもしりたいです。日本語をもっと話せるようになりたいです。

わたしたちは日本のぶんかがちょっとわからないので、じゅぎょうのときなにかしつれいなことをしたかもしれません。すみません。

私たちクラス1の学生をやさしく教えてくださった先生方に心からかんしゃします。ほんとうにどうもありがとうございました。

じむしつのみなさん、わからないことをなんでもしんせつにおしえてくださって、ありがとうございます。

先生方、留学生センターのスタッフのみなさん、留学生のみなさん、これからどうぞよろしくおねがいます。ありがとうございました。

#### クラス1—S代表、林 小涛 (中国、数理学研究科)

皆さんこんにちは

私は中国から来た林ショウトウと申します。今日は1 Sクラスの代表としてスピーチをします。

私たちはきょねんの10月に日本に来ました。そして、11月1日にクラスが始まりました。最初はひらがなもかたかなもわかりませんでした。そして日本語でしつもんしたりこたえをきいたりすることもできませんでした。

1 Sクラスは一日に1 Lessonのクラスだったので、スピードがはやくてたいへんでした。たとえば、今日「食べましょう」を習って、次の日は「食べてください」、その次の日は「食べないでください」、その次の日は「食べたほうがいいです」……どんどん新しいことを習いました。

でも、私たちは12人でよく勉強しました。クラスを一度も休まなかった人が二人もいます。オウさんとシさんです。そのほかのクラスメートはしんせつなモイさん、いつもわらっているナムさん、やさしいリヤさん、ユーモアがあるエディさん、まじめなジョンさん、たくさんしつもんするエリックさん、いつも元気なチャバさんでした。先生もねっしんでやさしくて、まじめだと思います。みんなよく教えてくださいました。先生やクラスの皆さんと勉強するのは楽しかったです。

四カ月すぎて、今簡単な日本語ならすこし話せるようになりました。でももっといろいろなことを日本語で話したいです。これからも日本語の勉強をつづけたいと思います。

では、これでスピーチをおわります。ありがとうございました。

#### クラス2代表、ラドウ ステファン アクシンテ (ルーマニア、法学政治学研究科)

みなさまこんにちは。

ルーマニアのステファンともうします。今日は、私が

クラス2のスピーチをいたしますが、じつは、私はクラスの中で、一番日本語が下手な学生です。しかし、ほかの学生は、大学院の入学しけんで、いそがしかったので、私がスピーチすることになってしまいました。どうぞよろしく願いいたします。

日本に来る前に、私は日本語がぜんぜん分かりませんでした。そして、日本に来て、日本語を聞いたとき、このげんごで話せるようになるのは、むりだろうとかがえました。それはもう一回あかちゃんになったきぶんでした。なにも話せなくて、なにも読めなかったからです。

しかし今、私はあかちゃんではありません。たぶん、まだ私の日本語は、2さいの子どもの日本語とおなじですが、このセンターの先生のおかげで、むりだという私のかんがえは、かんぜんにかわりました。そして、今は、これからも、もっとがんばろうと思うようになりました。

クラスで、勉強したのは、日本語だけではありませんでした。いろいろな国のれきしや文化について知ることができましたし、とてもいい友だちを作ることもできました。

クラス2には、学生が4人いました。一番目、フィリピンのレヤさんは、私たちのおいしゃさんで、フィリピンのりょうのアドバイザーでした。二番目、ウルグアイのけんちくかのアルバロさんは、いつもえを書いて、マテというおちゃをよく飲む人でした。三番目、ボスニアのスタンコさんは、しんりんがくが専門で、クラスの中で、いつも日本語で、できるだけ話そうとするいい学生でした。そして、私は、日本の友だちになった、四番目の学生です。日本がすきになったので、ルーマニアに帰ったら、日本とルーマニアのかけはしになれるような人になりたいと思っています。

さいごに、クラス2を教えてくださいましたすべての先生方、ほんとうにどうもありがとうございました。どの先生のクラスも分かりやすく、たのしかったです。

また、4月にお会いしましょう。みなさま、どうもありがとうございました。

#### クラス3代表、ナターリヤ ウラディーミロブナ ツァルーク

(ロシア、総合文化研究科)

皆さん、こんにちは。私はロシアのナターリアと申します。今日はクラス3の代表として、クラスの内容や、先生方や、メンバーなどの思い出について話させていただきます。

クラス3で終わりまで一生懸命勉強していたのはギオンさん、ミティさん、アーチイトさん、ウアさん、ミハルさん、ディーンさんと私の7人でした。クラス3は8人の先生に教えていただきました。先生方はみんな素敵な個性を持っていらっしゃいました。それで、教え方は先生によって違って、教科書通りに授業をする先生もいれば、教科書に書いていないことをたくさん教えてくださいました。そして、クラスの内容も、文法や、会話や、作文や、読み物など、いろいろだったので、と

てもやくに立ったと思います。クラス3で勉強したおかげで、みんな以前より自分自身の日本語の能力に自信を持つようになりました。先生方には感謝しております。いろいろと教えてくださいましてありがとうございました。

クラス3のメンバーは日本語の様々な分野に興味があって、いつもたくさん質問をしました。他の人の質問のおかげで、教科書にない言葉を楽しく覚えることができました。笑いながら覚えた言葉はいつまでも忘れないと思います。

私達は毎朝9時に来るのは大変だったので、よく遅刻をしました。でも、毎日日本語を頑張ろうという雰囲気があったので、朝寝坊したとしても、間に合わなかったとしても、毎日授業へ来るようにしました。この毎日日本語を勉強するという習慣のおかげで、今からもクラス3のメンバーは同じように、日本語の勉強を続けたいと思うようになりました。

さて、最後になりましたが、留学生相談室の方、そして事務室の方にも、勉強のことだけではなく、生活のことで、いつも大変お世話になりました。クラス3のメンバーから、どうもありがとうございましたと伝えたいと思います。

これで終わります。御清聴ありがとうございました。

#### クラス4代表、エリック ゴードン ディンモア (アメリカ合衆国、経済学研究科)

皆さん、こんにちは。

最初に簡単な自己紹介をさせていただきます。私は、アメリカのニューヨーク地域から参りましたエリック・ディンモアと申します。経済学部に属する研究留学生で、博士論文のために日本の近現代の社会経済史を研究しております。

今日は今年度の冬学期のクラス4の代表として、クラスメートたちとクラスの様子について少しお話ししたいと思います。今度のクラス4は、5人いました。

アメリカのカラカスさんは、法学部に属し、戦後の日本の人文地理を専攻している研究生で、熱心に研究をしています。イタリアのパオラさんも近現代日本の新宗教に関する研究やゼミに熱心に参加しています。パオラさんは、すでに2度宗教のゼミで日本語で発表するなど、今学期大変頑張ったそうです。カナダのクロドエブさんの専攻は、日本女性の言語人類学で、私の立場から見れば大変難しそうな言語学の理論をよく把握しているので驚きます。そして、フランスのザビエさんは、約1年半前に来日し、現代日本の建築学を勉強しています。しかし、専攻は建築学なのにクラスでは日本語の文法の問題点についても、非常に細かくて面白い質問をいつもしていました。4人のクラスメートとは、クラスの中でそれぞれの国の状況を紹介しあったりするうちに、とても親しくなりました。そして、このようなクラスメートたちのおかげで、楽しく日本語を勉強することができました。

また、クラス4の4人の先生方、菊地先生、増田先生、

田代先生、そして太田先生、にも、感謝したいと思います。先生方は私たちの興味や専攻に基づいて教材を選択して下さって、新聞の語彙、発表の丁寧語、文法の規則などいろいろなことを熱心に教えて下さいました。特に菊地先生に、尊敬語と謙譲語の正しい使い方を教えていただいたおかげで、私たちは段々丁寧な日本語が上手に使えるようになってきました。どの先生も、私たちのつまらない質問にも丁寧に詳しく答えて下さいました。欧米人である私の立場から見ると、日本語は他の欧米語に比べ難しいですが、先生方のおかげで、私たちは以前より自信を持って話せるようになってきたと思います。

最後に、先生方とともに、センターの事務の皆様にも学生たちから心からお礼を申し上げます。

これで私のスピーチを終わります。皆さん、どうもありがとうございました。

### 特別コース代表、イ ヒョンジョン

(韓国、医学系研究科)

皆さん、こんにちは。私は韓国から参りました特別コースの李賢情と申します。大学院医学系研究科の研究生として、健康増進分野の勉強をしております。特別コースが始まる前はみんな医学部は忙しいので日本語の授業は受けなくても良いと言われていましたが、今は、それがどういうわけか、クラスの中で一番暇な人になってしまい、それで特別コースの代表としてスピーチすることになりました。

まず、特別コースの紹介をいたします。特別コースは火曜日と金曜日のコースがあります。私は両方に出席しており、火曜日のクラスはフランスのオドリさん、ロシアのウリアナさん、アメリカのアンさん、台湾のチンさん、そして韓国のキムさんで、金曜日のクラスはスウェーデンのフゴさんとキムさんで、和やかな雰囲気でした。

他のコースに比べると非常に短い時間でしたが、その内容は充実しており、読む、書く、聞く、話すのどれか1つに偏ることなく、全体的に自然な日本語が使えるよう勉強しました。

火曜日の授業は新聞記事を元に勉強しました。前半は前原先生のご指導で、読んだ記事の内容は「ちょボラ」、「遺伝子差別」、「犬語翻訳機」、「記者よ感じたままに書け—その反論」など、重いものもあれば軽いものもありました。ですが、全部日本社会だけにとどまる問題ではなく、人間として一度は考えて見るべき内容のものでした。また、いろいろな国の事情を聞くことができ視野が一層広がったと思います。

一方、菊地先生の下で、後半には「控えめの功罪」、「朝日新聞による日本人の自画像、信用度に関する世論調査」などの日本人についての記事を読みました。日本で生活しながら感じた日本人に関する印象とはまた違う、新たな「日本人」を知るよい機会だったと思います。

さらに、記事を読んだ後には、それを要約することにより書く練習もしました。これ以外にもさまざまなこと



修了証を手に一同で記念撮影



祝辞を述べる佐々木総長

をしましたが、特に印象に残っているのは、毎回行った漢字テストです。漢字テストは、漢字の実力はもちろん、復習もできましたので日本語能力の向上にも役にたちました。

金曜日の授業では、前半は大島先生のご指導で、まず、ビデオを観てそこに出てきた単語や表現を聞き取り、それについて勉強しました。普段テレビを観る時は、細かい単語や表現まで聞こうと集中して見たのではなく、むしろ全体の内容さえ理解できればよいと思っていたものでしたので、最初は何回ビデオを見ても聞き取るのは難しかったです。また、授業中に扱っていたテーマも日本の社会の現状から美術や音楽まで幅広いものでした。その中でも「宮島達男」という画家についてのビデオは今でも記憶に残っています。実はこれがきっかけで、この画家の個展にも行ってきました。

増田先生のご指導の後半には、書くことと話すことを中心とした授業を行いました。「伝言メモ」や「目上の人に出す手紙の書き方」などの、生活で必要とする文章をはじめ、「データの説明」、「分類と定義」および「ハンドアウト」などの大学生活で常によく書く文の書き方も教えていただきました。今まで日本語を習いながらたくさん作文の授業を受けましたが、初めて書いてみたものもあり、大変ながらもいい勉強になりました。でも、一番大変だったのは、やはり「発表」でした。発表の準備はもちろん、発表する時も緊張してしまい、何を話しているのかも分からないぐらいでした。でも、これから先、

発表する機会が多いと思うのですが、このおかげでうまく発表できるという気がします。

コースが終わってよいよ本番です。本格的な研究が始まります。ぜひ、日本語コースで学んだ知識を生かしていきたいと思います。これからもいろいろな方面で活躍する私達を見守ってください。特別コースの皆さんを代表して留学生センターの先生方、そして留学生課のみなさんに心から感謝を申し上げます。まことにありがとうございました。また、これからもよろしく願いたします。

## 東京大学外国人留学生後援会による「留学生スキー講習会」開催される

去る平成15年2月14日（金）から17日（月）にかけて、長野県栂池高原で、東京大学外国人留学生後援会によるスキー講習会が開催されました。これは、同後援会の学生交流活動への支援の一環として開催されたもので、今回で4回目となります。

今回は約130名という応募者多数の中から、抽選により選ばれた13カ国29名の留学生が参加しました。

一行は14日午後11時、本郷キャンパスをバスで出発し、15日午前6時頃に栂池高原スキー場へ到着。東京大学スキー部員及びOBの方々のオリエンテーション等の後、早速、レベル別に班分けして、スキー講習会が開始されました。参加者の大半が初心者のため、ゲレンデまでのスキーの担ぎ方、準備運動、スキーの履き方から初滑り＝初転びへと講習は進み、コーチ陣の丁寧な指導により、午後には全員が緩斜面のコースを滑り降りることができるようになりました。またこの日は、小谷中学校からも生徒達と先生が合流し、一緒に滑りながら交流を深めました。

2日目は、大雪警報が出るほどの悪天候でしたが、スキー講師の熱意あふれる指導と本人達の転ぶことを恐れない練習の成果で、初めてのスキーにも関わらず、全員が滑れるようになり、午後はさらに上級のコースに挑戦するなど、時間一杯までスキーを楽しみ、夕方無事に下山しました。

食事は、スキー部関係者及びボランティアによる鍋物やお汁粉等の手料理が供され、一同大いに舌鼓を打ちました。食後は、歌やゲームに興じたりして、異なる国・地域から集まった留学生同士、また、スキー部関係者やボランティアの方々と大いに親睦を深めることができました。

最終日は村立小谷中学校を訪問し、全校生徒から拍手で歓迎を受け、挨拶に引き続いて、留学生の母国並びに自己紹介が行われ、その後、1年生の地域伝統の舞や歴史の紹介があり、グループに別れて、生徒が作ったゲーム等を通して、国際理解と交流を深めました。

最初はお互い緊張気味でしたが次第に打ち解けていき、最後は時間が足りず、連絡先を教えあったりして名残を



小谷中学校生徒との交流風景

惜しみつつ同校を出発し、午後6時半頃、無事に本郷キャンパスへ到着しました。

今回の講習会を無事に実施することができたのは、本学スキー部関係者、ボランティア、小谷中学校生徒及び教職員の絶大なるご協力と、本会を支えていただいている会員各位のご支援の賜物であり、ここにあらためてお礼申し上げます。

（東京大学外国人留学生後援会）

## 平成14年度総合研究博物館公開講座 「人類進化史研究の最前線：化石と分子と先史」

平成15年1月16日から2月27日までの毎週木曜日17：00～19：00（全7回）に、総合研究博物館公開講座「人類進化史研究の最前線：化石と分子と先史」が行なわれた。多数の応募があったが、厳選な抽選の結果、89名の受講者が決定した。

### 講座内容

- 第1回 「人類起源期の化石人類その1」諏訪 元（本館助教授）
- 第2回 「人類起源期の化石人類その2」諏訪 元
- 第3回 「人類の起源と分子進化」齋藤成也（国立遺伝学研究所）
- 第4回 「現代人の起源と分子進化」齋藤成也
- 第5回 「鮮更新世の化石人類」諏訪 元
- 第6回 「先史考古学人類進化」西秋良宏（本館助教授）
- 第7回 「現代人とネアンデルタール人類の進化」  
近藤 修（理学系研究科講師）

講義はNATURE誌やSCIENCE誌に発表された最近の研究論文を中心に紹介するという、公開講座としては前例のない形式だったが、多くの受講生が「最先端の研究に触れられてよかった」と感想を残した。



公開講座の様子

（総合研究博物館）

## ≡ 部局ニュース ≡

### 退官教官の最終講義

本年3月末までに本学を退官される方々の最終講義・講演等の日程と題目をお知らせいたします。

#### 大学院人文社会系研究科・文学部

庄司興吉 教授（社会学）

3月24日（月） 14：00～17：00

法文2号館1番大教室

「ポストコロニアルな地球市民の社会学」

#### 医科学研究所

森 庸厚 助教授（免疫調節分野）

3月28日（金） 14：05～15：05

医科学研究所講堂

「生殖現象における細胞の生と死」

余卿嘉明 助教授（ウイルス感染分野）

3月28日（金） 15：15～16：15

医科学研究所講堂

「JCウイルスからみた日本人の起源と多様性」

金井芳之 助教授（遺伝子機能研究分野）

3月28日（金） 16：25～17：25

医科学研究所講堂

「抗クロマチン抗体研究の過去・現在そして未来  
—その病因論とベットサイドへの応用を求めて—」

### 大滝村・秩父演習林交流シンポジウム開催される

2月24日（月）に農学生命科学研究科で大滝村と秩父演習林の交流シンポジウム「フィールド教育研究と地域交流」が開催された。大滝村は面積33,000ha、埼玉県の1割を占め、荒川源流部に位置する。村の96%が森林で、2割近い面積を秩父演習林が占める。秩父演習林は1926年に創設され、冷温帯山岳林として世界的にも貴重な森林生態を呈している。当日は大滝村から山口民弥村長はじめ5名の代表が東京大学を訪問した。

シンポジウムでは林良博農学生命科学研究科長の挨拶に続き、鈴木和夫附属演習林長から地球環境問題の視点のとりえ方とともにこれからは地域の活動が重要となる主旨の基調講演があった。山口村長からは村と演習林の共存共栄についての提案があった。引き続き酒井秀夫秩父演習林長から同演習林の教育研究資源、梶幹男新領域創成科学研究科教授から植物からみた奥秩父の自然、大橋邦夫北海道演習林長から秩父の地理、水源としての重要性について講演があり、丹下健演習林研究部長が総括した。東京大学には7つの地方演習林があり、今後とも

地域の実情に沿って連携を深め、協力関係を築いていくことは双方の持続的発展を維持していく上で重要な課題と考えている。2時間余りのシンポジウムであったが、演習林が培ってきた森林資源や教育研究業績を大滝村の発展といかに結びつけていくのか、その可能性を考える上で密度の高い交流シンポジウムであった。



林研究科長と山口村長（中央）のニホンオオカミをめぐる専門的質疑

（大学院農学生命科学研究科附属演習林）

### 堂本暁子千葉県知事が千葉演習林を訪問

このほど千葉県の大滝村に、堂本暁子知事と大槻幸一郎副知事が千葉演習林を訪問され、林良博農学生命科学研究科長、鈴木和夫演習林長らの案内により、千葉県で最も自然度の高い南房総の照葉樹林やスギ・ヒノキの人工植栽地を歩きました。ニホンジカの個体数調整の問題にも関心を示され、黄和田地区の炭焼き窯を見学して地域の皆さんとも交流を深めました。清澄学生宿舎ではキヨスミミツバツツジを記念植樹しました。今後、東京大学と千葉県は環境教育や野生生物管理、里山利用などの課題について共同研究を進めることになっています。



記念植樹をする堂本知事（中央）

（大学院農学生命科学研究科附属演習林）

## ≡ 掲示板 ≡

## 総合研究博物館小石川分館の常設展再開について

小石川分館開館1周年記念として開催された『マーク・ダイオンの「驚異の部屋」』展が、3月2日に終了した。連日たくさんの方が、学術廃棄物をコレクトして仮構された博物学的小宇宙を体感していた。

一部リニューアルした常設展示が3月18日（火）に再開する。通常は火曜日から金曜日の平日開館であるが、春期のみ4月6日（日）まで土・日祝休日も開館する。

場 所：文京区白山3-7-1（理学部附属植物園内）  
（分館から植物園への通り抜けはできません）

開 館 日：毎週火曜日～金曜日  
（ただし、3月18日～4月6日までは土・日祝休日も開館）

開館時間：午前10時～午後4時30分（ただし入館は4時まで）

閉 館 日：毎週土、日、月曜日（4月6日まで月曜のみ休館）

入 場：無料

問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600

ホームページ：<http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

## 社会情報研究所教育部研究生募集

社会情報研究所では、平成15年度教育部研究生を次のとおり募集します。研究生には、マス・コミュニケーションについての教育指導を行います。

講義日程	毎週月曜日～金曜日 15:15～16:55、17:05～18:45
修業年限	2年
出願資格	①東京大学後期課程在学学生または卒業者 ②他大学の在学学生で①と同等の資格を持つ者または卒業者
出願期間	4月1日（火）～7日（月） （土・日を除く）
筆記試験	4月11日（金）13:30～17:00
試験科目	英語（外国人は日本語）、基礎学力 （前期課程修了程度の社会科学、人文科学の基礎知識）
面接試験	4月17日（木）9:30～ （筆記試験合格者に対して行う）

募集要項は社会情報研究所庶務掛にて配付中

## コンピュータ・ネットワーク利用セミナーのお知らせ

情報基盤センターでは、コンピュータ・ネットワーク利用セミナーを以下のとおり開催します。本セミナーは、本学の教職員・学生等を対象とした講習会です。コンピュータとネットワークを適切に利用してもらうために必要な技術等に関して実施しています。

## 【第36回コンピュータ・ネットワーク利用セミナー】

タイトル

「より使いやすいWebサイトのために」

日時

3月19日（水）15時00分～17時00分

場所

本郷：情報基盤センター 4 F413遠隔講義室

駒場：教養学部1号館 2 F163番教室

定員

本郷会場40名

駒場会場60名

概要

せっかくサイトを立ち上げたものの、情報が見つけないとか、迷子になりやすいとか云われたことはありませんか？ ナビゲーションデザイン/メニュー構成/コピー表現など、新規構築や再構築に欠かせないインタフェースのあり方について、ユーザビリティの基本的な考え方や最近の動向もまじえて、制作の現場からレポートします。

講師

（株）文化工房 メディア企画部 望月龍志氏

参加費

無料

参加申し込み

以下のURLの本セミナータイトルの中にある申し込みページからお申込み下さい。

<http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/Seminar/>

（参加申し込み数が定員に達し次第、締めきらせていただきます。）

備考

講師の説明は本郷側の会場で行います。駒場会場はATM遠隔講義・会議システムを利用した中継による受講になります。申し込みの際、参加される会場をご指定ください。

（情報基盤センター）

## ≡ 事務連絡 ≡

## 人 事 異 動 (教官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
15. 3. 1	山 本 隆 一	(採 用) 大学院情報学環助教授	
〃	中 園 幹 生	(昇 任) 大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科助手
〃	石 井 久美子	情報基盤センター助教授	大学院情報学環講師
15. 2. 16	増 田 宏	(配 置 換) 大学院工学系研究科助教授	人工物工学研究センター助教授
15. 3. 1	百 生 敦	大学院新領域創成科学研究科助教授	大学院工学系研究科助教授
〃	矢 富 裕	(転 任) 大学院医学系研究科助教授	山梨大学医学部助教授
15. 2. 16	浅 島 誠	(併 任) 大学院総合文化研究科長 教養学部長	大学院総合文化研究科教授
〃	赤 沼 宏 史	教養学部生命・認知科学科長	大学院総合文化研究科教授
〃	浅 島 誠	(併任解除) 教養学部生命・認知科学科長	大学院総合文化研究科教授
15. 3. 1	杉 本 雅 則	情報基盤センター助教授	大学院新領域創成科学研究科助教授

≡ 広報委員会 ≡

『学内広報』掲載写真の公募

次の要領で、「学内広報」に掲載する写真とその内容の紹介文を、広く本学関係者から募集します。

1. 内 容：東京大学に関するものなら内容は特に問いません。学内点描でも、一般の学内の人達になじみのうすい乗鞍や北海道などの各種施設の状況でも、観測船やスーパーカミオカンデなどの各種設備の概観でも、電子顕微鏡や高速度瞬間写真などによる珍しい現象でも、なんでも結構です。
2. 形 式：特に問いません。
3. 説明文：500字程度の写真内容を説明する文章をつけ、所属・氏名を明記してください。
4. 締 切：特に設けません。随時。
5. 掲 載：原則として、表紙に掲載します。
6. 送り先：〒113-8654 文京区本郷7-3-1  
東京大学 事務局総務課広報室  
03(5841)2031

投書欄「噴水」にご意見を!!

「学内広報」には、皆様から投書を寄せていただく欄として、「噴水」が設けられています。この欄への投書要領は、次のとおりです。

- 1 本学における教育・研究活動に関する建設的な意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 〒113-8654 文京区本郷7-3-1  
東京大学 事務局総務課広報室 03(5841)2031

『あなたのゴミは  
みんなのゴミです』



## 自転車乗りのマナー

キャンパス内で建物の新築や改修工事が開始されるのを、それに伴う交通規制で歩行者用通路が変更されることで気付かされることが多い。細心かつ万全の対策で学内歩行者の安全が確保されることを願わずにはいられない。

そこで気になるのが自転車乗りのマナーである。キャンパス外の公道においても、自転車は歩道では降りて押して行かねばならないそうだが、工事により狭くなっている歩行者用の通路を、我が物顔でスピードを出して通り抜けてゆく自転車がある。自動車と違って音で気付くことがないだけ、余計にヒヤッとさせられる。薄暗くなってからも無灯火であったり、歩行者のすぐ脇を八の字に追い越すなど危険極まりない乗り方は論外であるが、もう少し歩行者に気を配った乗り方ができないものか。自動車ほど大きな事故につながる可能性は少ないかもしれないが、最近でも、横断歩道での自転車との衝突で命を落とされた方がいたと聞いた。

一時期、建物周辺における放置自転車や乱雑

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)



な駐輪が、学内通行の障害となり、また美観を損ねるものとして、大きな問題となっていた。その後、関係各部局の努力により駐輪場所や施設が整備され、各部局建物の周辺での状態は大分良くなったように思う。しかし、

食堂や購買部など公共用途の建物周辺の駐輪状態は、依然として改善されているようには見うけられない。乱雑に入り口を塞ぐように置かれた自転車を前にし、どうやって倒さずに建物内に入って行くか戸惑うこともしばしばである。整備された駐輪施設が無ければ、

歩行者の邪魔にならない駐め方はできないというのであろうか。

自転車はキャンパス内の移動に欠かせない乗り物である。また、近距離通学通勤の便利な足でもあり、適度な運動を伴うため使い方によれば健康維持にも役立つだろう。排気ガスを出さないという点では確かに無公害であるが、歩行者の安全や利便性を損なうという意味では立派な公害発生源にもなり得るのである。高邁な学問を修め、またそういう学生達を支援しようとする人々からなる学内で、自転車乗りのマナーとして歩行者に対するほんの少しの優しさを求めるのは、無理な相談なのであろうか。

(匿名)

### ◇広報室からのお知らせ

平成14年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL : <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1257

2003年3月12日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail [kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>